

50年前、1972年11月8日に早稲田大学文学部キャンパスでひとりの若者が殺された。第一文学部2年生の川口大三郎君。文学部自治会を牛耳り、早大支配を狙う新左翼党派革マル派（日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派）による凄惨なリンチによる20歳の死者。革マル派と中核派（革命的共産主義者同盟全国委員会）が「内ゲバ」と呼ばれる殺し合いをはじめた時代だった。好奇心旺盛なノンポリ学生だった川口君は革マル派に中核派スパイという誤ったレッテルを貼られ、拉致された。なぜ、川口君は殺されねばならなかったのか。

川口君リンチ殺人事件に怒った早大全学の一般学生はすぐに立ちあがった。革マル派を追放して自由なキャンパスを取り戻し、民主的な自治会を作ることを目的とした「早大解放闘争」が始まり、世間の注

目を集める。それは「内ゲバ」の時代を終わらせ、新しい学生運動を生み出す可能性を秘めた闘いのはずだった。しかし革マル派の「革命的暴力」の前に一般学生は敗れ去り、わずか一年でその闘争は収束する。そして皮肉にも川口君リンチ殺人事件を機に革マル派と中核派の「内ゲバ」は、社青同解放派（日本社会主義青年同盟解放派）をも巻き込む形でエスカレートしていくのである。

誤って殺された川口君の無念を晴らす。100人を超える「内ゲバ」の死者の無惨を明らかにする。理想に燃えた過去の若者たちが結果的に犯した失敗を、理想に燃える未来の若者たちが二度と繰り返さないために、僕は映画「彼は早稲田で死んだ」を作る。

監督 代島治彦

2023年公開予定

50年前の  
悲劇の証言が  
はじまる

# 彼は早稲田で死んだ (仮題)

長編ドキュメンタリー映画

企画・監督・編集 ● 代島治彦

プロデューサー ● 沢辺 均

撮影 ● 加藤孝信

短編劇作・演出 ● 鴻上尚史

音楽 ● 大友良英

企画協力 ● 樋田 毅

製作協力 ● サードステージ

製作 ● 製作委員会

[スコブル工房・ポット出版]

<https://kare-wase.net>

ベトナムの平和を、愛と平等を願った若者たちがどうして。 鴻上尚史 作家・演出家。1978年早大入学

代島治彦監督の『三里塚のイカロス』を見た時、「ああ、僕と同じことを知りたいと思っている人がある」と感じました。『きみが死んだあとで』も同じことを思いました。この国の人々が現在、政治にさほど関心がなく、国政選挙の投票率が50%を前後している原因の大きなひとつは、かつての「政治の季節」をちゃんと見つけ、検証しきれてないからだと思っています。

当時も今も、人々から政治を遠ざけた最大の要因は「内ゲバ」だと

僕は考えます。ベトナムの平和を願い、愛と平等を願った若者がどうして殺し合いをするようになったのか。

三里塚、学生運動と綿密な検証を続けている代島監督に、ぜひ、次は内ゲバを取り上げて欲しいとお願いしました。代島監督から逆に提案を受けて、映画作りに参加することになりました。今の若者に当時の若者を演じもらおうと思います。この映画が、過去と現在、そして未来を照らす言葉になることを願っています。



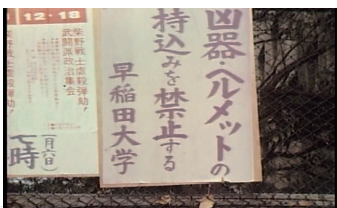
「内ゲバ」の時代が二度と来ないようにするために。 樋田毅 ジャーナリスト。1972年早大入学

『彼は早稲田で死んだ』を出版後、同世代だけでなく、様々な世代の人たちから多数の反響が寄せられています。かつて全共闘運動や政治セクトの暴力のなかで生きた人、自衛の武装をめぐって悩んだ人、政治セクト主導の文化サークルに知らずに入り、抜けるのに命の恐怖を感じた人、親しい友がセクト間の争いに巻き込まれて殺されたという人……。

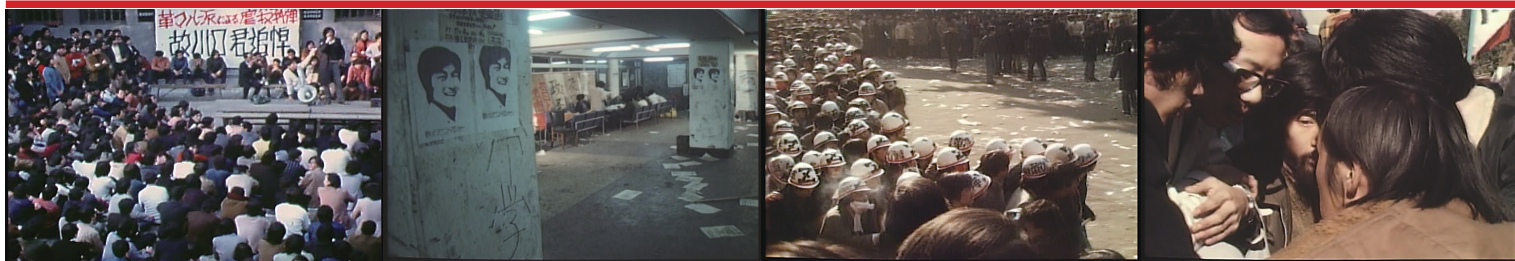
大学が暴力支配された時代と正面から向き合うことは、とてもつらいことだけれど、もう



逃げてはいけない。一步違えば、自分が川口大三郎君になっていたかもしれない。いや、川口君を殺す側になっていたかもしれない。どの文面にも、切実な思いが溢れていました。「内ゲバ」の時代が二度と来ないようにするために、私たちにできることは何か。それを考えるため、あの時代を真摯に振り返る。映画は、そんな意図で制作されます。この映画が、今も世界各地に跋扈している「正しい暴力」に抗う力になりうると信じます。







## 映画「彼は早稲田で死んだ」(仮題)

カンパ

# 製作支援金のお願い

代島治彦監督の新作「彼は早稲田で死んだ」は2023年公開をめざして製作を進めています。

2022年2月クランクイン。

ドキュメンタリー内に鴻上尚史さん作・演出の短編劇を挿入するという実験的な試みを8月に撮影してクランクアップ予定。編集・音楽録音・仕上げ作業を経て、川口大三郎君リンチ殺人事件から50年目に当たる2022年11月8日に完成披露上映会を開催したいと考えています。

製作予算は約1,200万円(映像製作費900万円、短編劇製作費300万円)。2022年5月より総予算に対して50%(600万円)の製作支援金(カンパ)を集める活動を開始します。

代島監督の新作「彼は早稲田で死んだ」へのご支援をこころよりお願い申し上げます。

映画「彼は早稲田で死んだ」製作委員会

## 製作支援金 種類と特典

- 個人支援 一口・10,000円
  - 一口 特典＝映画パンフレット1冊・全国共通前売券1枚進呈
  - 二口 特典＝映画パンフレット5冊・全国共通前売券5枚進呈
  - 三口以上 特典＝映画パンフレット5冊・全国共通前売券5枚進呈  
映画本編エンドロールにお名前掲載

- 団体・法人支援 一口・100,000円
  - 一口 特典＝映画パンフレット10冊・全国共通前売券10枚進呈
  - 二口 特典＝映画パンフレット20冊・全国共通前売券20枚進呈
  - 三口以上 特典＝映画パンフレット20冊・全国共通前売券20枚進呈  
映画本編エンドロールに団体名・法人名掲載

### 「お名前掲載」に関する注意事項

映画本編エンドロールにお名前・団体名・法人名を掲載したい方は、映画製作スケジュールの都合上、2022年9月30日(金)までにご支援ください。この期日以降にご支援いただいた方は映画公式HP上にお名前・団体名・法人名を掲載させていただきます。



### 「製作支援金振込方法」

- 「郵便振替」の場合(赤色払込取扱票を使用)
  - 口座番号……00260-7-144502
  - 口座名称……スコブル工房(スコブルコウボウ)
  - ・赤色払込取扱票に〈お名前・ご住所・ご連絡先・金額〉をご記入の上、お振込みください。
  - ・映画本編エンドロールへのお名前掲載を希望されない方はその旨をご記入ください。
  - ・ニックネームでのお名前掲載を希望する方はニックネームをご記入ください。

- 「銀行振込」の場合
  - 銀行名……埼玉りそな銀行
  - 店名……熊谷支店(店番号574)
  - 普通預金……口座番号5355874
  - 口座名義\_\_\_\_(有)スコブル工房((ユ)スコブルコウボウ)
  - ・上記銀行口座へお振込みください。
  - ・銀行振込後、下記メールアドレスまたはFAX番号まで、〈必須なお知らせ事項〉〈関連するお知らせ事項〉をお知らせください。
  - 〈必須なお知らせ事項〉
    - ①お名前 ②ご住所 ③電話番号またはメールアドレス
    - ④振込日 ⑤金額
  - 〈関連するお知らせ事項〉
    - ・映画本編エンドロールへのお名前掲載を希望されない方、ニックネーム掲載を希望の方、また領収書送付が必要な方はその旨をご記入ください。
    - ・お知らせメールアドレス info@kare-wase.net
    - ・お知らせFAX番号 03-3402-5558

## 鴻上さんと樋田さんに 背中を押されて。

代島治彦 1977年早大入学

鴻上「次は〈内ゲバの時代〉の映画を作ってください」代島「それは難しい…」2021年11月、『きみが死んだあとで』上映後のトークイベントで劇作家の鴻上尚史さんと話しました。鴻上「最近出版された『彼は早稲田で死んだ』という本、面白かった」代島「ぜひ読んでみたい」。イベント終了後、会場にいた著者の樋田毅さんから僕はその本を贈呈され、その晩一気に読みました。映画作りの話は、樋田さんと鴻上さんと僕の、この日の偶然のような、必然のような出会いからはじまりました。

鴻上さんは1978年、僕は77年に早大入学。四国から上京した鴻上さんも、北関東から上京した僕も、少年時代に学生運動に憧れ、高校時代に新左翼党派に絶望した「遅れてきた世代」です。だからこそ、樋田さんが書いた川口大三郎さんのリンチ殺人事件をめぐる〈内ゲバの時代〉の体験はここに突き刺さりました。樋田さんに映画化の快諾もらった僕は、フィクションを含むドキュメンタリーを構想し、鴻上さんに映画のための芝居作りをお願いしました。

樋田さん、鴻上さんと共同の映画作りがいよいよ始動します。映画『彼は早稲田で死んだ』へのご支援、よろしくお願い申し上げます。

代島治彦 Daishima Haruhiko

映画監督・映画プロデューサー。1958年、埼玉県生まれ。早稲田大学政経学部卒業。『三里塚に生きる』(2014年)、『三里塚のイカロス』(2017年/第72回毎日映画コンクール・ドキュメンタリー映画賞受賞)、『きみが死んだあとで』(2021年)と、1960年代後半から70年代の「異議申し立ての時代」をテーマにしたドキュメンタリー映画を連作した。著書に『ミニシアター巡礼』(大月書店)、『きみが死んだあとで』(晶文社)など。

### ●第53回大宅壮一ノンフィクション賞受賞

この本にインスパイアされて  
代島治彦監督はこの映画を構想した

著者●樋田毅  
出版●文藝春秋  
四六判/264ページ  
定価●1,800円+税  
ISBN 978-4-16-391445-9

